



## むかし ひと 昔の人はどうやってトイレをしていたの

### かわ こや なが 川に小屋をかけて流していた

にほんご  
日本語でトイレのことを、べんじょ  
便所といいますね。そのほかに「かわや」とか「せっちゃん」ということばもあります。

「かわや」というのは、かわ なが  
川の流れの上に、こや  
小屋のようなものをつくり、そのまわりにかこ  
いをしたトイレのことです。ひとびと  
人々はそこでよう  
用をたしました。だから「かわや」とよばれたので  
す。かわ なか  
川の中に、ちよくせつ  
直接 うんちやおしっこをなが  
流してしまおうのですから、しぜん すいせん  
自然の水洗トイレです。  
みぶん たか ひと  
身分の高い人たちは、つか  
かこいのある「かわや」を使いましたが、ふつうのひと  
人たちは、かこ  
いのないところでよう  
用をたしました。

### ひりょう 肥料になるので捨てないでためるようにした

やがて、うんちやおしっこ（ふんによう  
糞尿）がさくもつ  
作物のひりょう  
肥料としてやく た  
役に立つことがわかると、かわ  
川などになが  
流さないで、つぼなどにためるようになりまし  
た。つぼなどにためておき、それをくさ  
らせ、ひりょう  
肥料としてはたけ  
畑にまいたのです。

えどじだい  
江戸時代になると、だいとかい  
大都会のえど まち  
江戸の町では、ちようみん  
町民がす  
住んだながや  
長屋のすみ  
すみにきょうどう  
共同ト  
イレがあり、そこでよう  
用をたしました。そこにたま  
ったふんによう  
糞尿は、たいせつ  
大切なひりょう  
肥料になるので、かね  
金でう  
売りか  
買いされまし  
た。（監修・田代 脩）

